

令和8年

新春市長

イ、タビユー

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。ありがとうございました。一年間市民の皆さんには、市政への理解、ご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年（2025年）を振り返って

■農業振興の推進

昨年は農業振興に大きく力を入れた1年でした。特に、次の3つの取組が挙げられます。

①蓼科野菜のブランド化

蓼科野菜を「ブランド化することで、地域の生産者が作っているトマトやキュウリなどを直売所やホテル、旅館に納めるような流通経路を作っていく狙いがあります。また、「年金プラス5万円」という形で生産者の所得向上につなげたいと考えています。

蓼科野菜という地域のブランドを確立することで、この地域の野菜の販売に資する形を作りたいと思っています。

②ハケ岳西麓りんご生産アカデミーの開講

全国的に地球温暖化の影響で気温が上昇していますが、この地域では、非常に美味しいリンゴが作れるようになってきました。そこで、りんごの生産者を増やして、この地域の野菜の販売に資する形を作りたいと思っています。

③山岳エリアの大型ドローン輸送

山小屋へ物資を運ぶ新しい手段として、大型ドローンによる輸送実験を行っています。実装されれば、現在の輸送方法に比べてコストを抑えることができ、山小屋の経営安定などにも寄与すると期待しています。



②消防団再編

消防団の再編も昨年完了し、今後、市が車両等の配備や報酬の見直し等を計画的に進めていきます。地域を守る要として、消防団はなくてはならない存在です。高部区の土砂流災害で人的被害が発生しなかつたのも、区の防災訓練の成果と消防団員の活躍が欠かせなかつたと思っています。

今後も、消防団員がより活動しやすい環境作りを行います。

昨年は、八ヶ岳周辺の13市町村が連携し、観光振興や地域活性化を図ることを目的に、「環八ヶ岳連携推進協議会」を立ち上げました。今年は、この事業を確実に進めていく年にしていきたいと思っています。まずは、県とも連携しながら、信州デステイネーション

令和8年（2026年）の展望

■観光振興のさらなる推進

昨年は、八ヶ岳周辺の13市町村が連携し、観光振興や地域活性化を図ることを目的に、「環八ヶ岳連携推進協議会」を立ち上げました。今年は、この事業を確実に進めていく年にしていきたいと思っています。まずは、県とも連携しながら、信州デステイネーション

■ベルビアの整備

今は「店ができるから人が来る」時代ではないと思われます。ビジネスコースや世代間交流など、多様な人が交わる「目的地」として整備を進めることで、ベルビアを自然に人が集まる拠点にしていきたいと考えています。

し、将来的には地域の特産物に育てたいという想いで、りんごアカデミーを開講しました。すでに多くの方が、この取組に関心を寄せてくれていますが、この地域で農業をやる強みを感じてもらいたい、より多くの方にご参加いただきたいと思います。

③「就農フェア」への参加

茅野市の農業の強みをしっかりと発信するため、年に引き続き、地元の若手農家で構成された「信州ちの就農LABO」のメンバーと一緒に協力して、首都圏で開催された「就農フェア」に参加しました。茅野市では、冷涼な気候を活かした農産物に加え、近年では、生産可能な作物の種類が増えています。また、東京・名古屋まで2時間ほどで物を運べる立地の良さもあります。そういった市の魅力や優位性を発信することで、若手農業者を増やしたいと考えています。そして、いずれ彼らが農業を法人化して新たな雇用を生み、そこで育った方が独立して農業に携わっていくといった好循環を作っていました。

■移住と住まいの支援

昨年は、空き家の利活用や移住促進のため、「茅野市空き家バンク」を開設しました。働く場所と住む場所の確保は、移住を促進するうえでも非常に大切な要素です。空き家バンクの活用を通して、多くの方に住む場所を提供していくことを考えていました。

■「のらざあ」のサービス向上

昨年は、A-I乗合オノデマンド交通「のらざあ」にも新たな展開がありました。3月からは、アプリ限定ではありますが、1時間以内の予約が取れる「今すぐ予約」を全車両で利用可能にし、利便性を高めました。

また、10月には、市の福祉の理念「みんな同じ空の下」の具現化に向け、車いす対応車両を2台追加し、障害の有無に関わらず、一緒にお出かけできる環境を整えました。

■DX実証実験の展開

デジタル田園健康特区に指定されている茅野市をフィールドに、国や民間事業者などが主体となつた実証実験に協力しています。在宅患者に対する定期的な心不全患者の再入院予防

引き続き、公共施設に焦点を当てたものだけではなく、ソフト事業も含めた全事業の見直しを進めます。不要で負担となつている部分を見直しつつ、新しい挑戦ができる体制づくりも進めていきます。理窟どご協力をお願いいたします。

■学校再編

行政改革とは別の議論として、学校のあり方も考えたいと思います。昨年から各小学校および各地区を回り、たくさんのお話を伺いました。今後は、お寄せいただいた声を整理しつつ、市全体としてどのような教育の形が望ましいか市民の皆さんに提案していきたいと考えています。

今は児童数が多い学校であっても、5年後、10年後の教育の姿を議論し、方向性を整えていきたいと思っています。

■行財政改革の継続

今年は午年なので、「天に駆け上がるよう進む」そんな年にしたいと思っています。やっとコロナ禍前の日常を取り戻してきた中で、行政改革という大きな山を乗り越えなければなりません。この山を乗り越え、市を良い方向に進めていくには、市民の皆さまのご理解とご協力が必要不可欠であり、市民と行政が同じ方向を向いて進んでいくことが重要だと思っています。

市民の皆さまと一緒に考え、行動し、茅野市をさらに良くしていきたいと思いますので、本年も、どうぞよろしくお願いいたします。



茅野市長 今井 敦

ビーナネット
Chino



ビーナネット
Chinoで、
インタビューを
動画でご覧
いただけます。